

植物動物礦物人體生理衛生物理化學天文地質の現象理法を深い喜と愛着とを以て觀察實驗して行く子供の相手として朗らかな氣持で無限のそして獨創的の質問を處理しよい助言者としてよい指導者として行く事わ實際容易な業でわない。現在の高等學校の理科部の自然科学方面位を眞面目に修めてあるものが常に研究心を持つていてはじめてなし得る程度のものである。それを現在の中學程度の理科知識で振出した訓導わ全く慘憺たるものだ。眞面目なものわ中道で倒れ、不眞面目なものわ初から投げてしまふ有様だ。

教授とゆう事わ結局自分の通つた道を整理して提供するより外、方のないものである。それで豊富な體驗から得た直觀が知識の根抵で科學わそれを系統立てたにすぎないものであるからこの直觀の乏しい自然科学（自然科学ばかりでわないが）わ外形生活だけに役立つ囁語たるに過ぎない。丁度手から口への悲しい労働者が命じられる労働を器械の様にして其結果が飯になるとゆう喜以外にわ生命が深く全的に喜ばされな

いことよく似ている。現在の理科知識わこゆる程度にあるものが多い。この學習態度が本當のものに改められない限り自然愛わ湧いて來ない。

事物の知識わその愛を増す。

知識が深くなるほど愛わいよく切である。

レオナルド、ダ、ヴィンチ

尋常一年生でわ毎日一時間位の自然科を課したいものである。園作りや手工や散歩にからんで施されるものである。十年位前自由教育といつてまことに結構な試が企てられ實行された事があるがそれわ餘りに冷たい世間的考のために壓倒されてしまつた。あゝゆう教育をなし得る人わ現在のところわ異常の天才でなければ駄目なのである。教員素質の向上が要望される理由わこゝにある。天才を待たねばならぬ仕事も世にわ少しある。あつてもよい。併し國民大衆に當るために多數を要する教員の様なものを天才でなければ出來ぬ様な状態（教員養成制度）におく事わ悪いことである。

尋常二年生にも三年生にも自然科を課さねばならぬ何しろ小學校八年を通じて自然科學をもつと多く學ばせる、いや自然に接せしめなくてはならぬ。駁者わそれで國語の時間などずつと減らさなければならぬと云ふ。然りと答える。減つても成績は現在以上にずつとよくなるから心配は無用だと答える。なぜならば自然を深く知り感じ、思考を練られ理科の概念の幽靈の暗記でなくて本當の觀念に立つものであるため（この學習態度精神は他の精神科學でも同じだから）味讀の力を深く培ふと共に讀解力を強くするので文字が讀めるとずん／＼意味が分つて、行くから現在の様に讀方の時間を多くしなくてもよい。且假名遣が發音的に（本書の様に）なるから一層能率上がる。

小學校八年を卒れば修身や歴史や地理もかなり深い研究が出来るから身の周りの自然や人事についても國家社會人類に對しても正確な生きたるとして自己に即した見解と判斷とを持つ様になれる。常に實用と詩との二面一體の生活をするので現代人として

有力であるわ勿論不易の人間としても又望ましいものである。これわ國民大衆生活の振出としてスタートとして實に遺憾ないものでわないか。この教員としてわ私の普通教員の素養を要するでわないか。

次に録する一文は大正十二年十月或る理科研究會で私が發表した時の要項である。

低學年に於ける理科的教育的價值

（自然科教授）

一、低學年の理科内容

（幼稚園や就學前家庭教育に於ても應用出来る。）

常に兒童が親炙して居る環境で極めて容易に觀察實驗出来る範圍内（學校附近及び大體居住町村内）の自然物と自然現象

衣食住、玩具（製作もする）遊戯的の理化學實驗自分の身體動物（自然のまゝを繼續して觀察したり飼養したりする）植物（自然のまゝを繼續して觀察したり栽培

したりする) 鑛物、天文、地文等

右の中から次の標準で教材を選ぶ。

好奇心(求知心)を満足するもの。

現在の児童生活として理解と利用との必要なもの児童に出来ることで教育的立場から見て必要な経験を豊富にするに役立つもの。

二 低學年理科(自然科教授)の價值

身體方面

野外に於ける觀察實驗其他飼養栽培、裝置等の仕事であるから身體を強健に發達する

精神方面

先づ好奇心を満足させ児童として自然を理解し驚異し利用して行く所に個性の發達が著しく、感覺器官を練習され筋肉や神経を極めて順當に發達する

思想感情の内容が確實豊富になる。

事實の活問題に面して判斷し計畫し實行する所から自發活動が盛になり創造性が開發される。

注意深くなり殊に飼育や栽培(繼續的注意なしにわ出来ない)永續的觀察から耐久的研究性が發達する。(日本國民性の缺點の一たる)

知情意の渾一活動として殆んど無意識に研究作業することが精神内容を本當に力あるものにする。

活動のための活動をするから *Kindergarten* の生活が芽生える。

規律、忍耐、勞働、繼續的努力の習慣がつく。

自然美の感得—審美的情操の發達造化の美妙に對する驚異から敬虔になり宗教的情操が涵養される。

× × × ×

人事現象（地理、歴史、社會、經濟、自然科學等）研究の確實なる觀念背景を作る。

利用厚生の物質的文明を盛大にする目的から見ても右の基礎が最も確實で有効で無害な方法である。

以上

〔二七〕 修身科公民科の重視わ誤謬

小學校の教育わ基礎教育である。人間教育である。何事をおいても現代生活者としての人格を基礎づけなければならぬ。

人格教育わ所謂修身科重視公民科重視風の教育からわ望まれない。各方面の良心を順當に發達させるでなければ圓滿な人格の基礎わ作り得ない。教科として精神科、自然科、技能科、實行科（實行科わ妙な言方だが）が大體區別され得るが、何れたるを問はず根本方針として全我活動主義動機主義過程主義をとらねばならぬ。結果主義功利主義を絶對に排斥せねばならぬ。勿論暗記主義知識偏重主義注入主義を排斥する。常に全我的活動をさせる事を念として施されねばならぬ。全我活動わきつと多かれ少なかれ忘我的活動である。深い喜びが伴わないことわない。

現代生活の病弊わあまりに打算的である點であるが教育もこれを助長する様に出來

ている。私達わ一面必ず打算もせねばならぬことわ衣食住をはなれ得ない人間として當然であるが、全我的活動を常にすれば期せずして有力な人となることが出来るので生活を樂しみながら物質に捉われることなく生きることが出来る。恰も子供が遊戯をする様な氣持で生きることが出来る。子供わ愉快に己を忘れて遊んで其結果わ己の生長とゆうよい結果を自然に得る。大人わ好きな事に没頭して其結果豊かに生活の資料を獲得出来るとうゆうことになる。これにわそおした學校生活を以て基礎を打建てねばならぬ。

修身科や公民科も課することわ結構なことであるが特にこれが人格修養上重大な價値があると考えるのわ間違である。これわ人事に關して研究する一部分たるに過ぎない。人格的の力わそんな偏したものでわない。歴史上の人事關係の直觀や自然現象の直觀からも力わ養われるのである。力わ行爲の根本である。身體の運動や人倫的行動や物の製作や鑑賞やも人格の力を養ふのである。義務的な道德教育偏重の儒教の見解

の一缺點で福澤諭吉が明治初期に喝破した通りである。新らしい國民大衆わ自發的であらねばならぬ。その自發的態度わ修身科や公民科でも一面養われるのわ無論であるが全教科が血となり肉となるものであることを決して忘れてわならぬ。

〔一八〕 高等技術學校

美術學校音樂學校外國語學校齒料學校體育學校等主として高等の技術を専攻する學校の現制度で大した不合理がない様である。

要するに男女中學校（何れも修業年限五箇年）の卒業生を入れて二年位若し必要なら三年でも主として高等技術とその技術を利用し得る程度の學とを授けるのである。體操を課する以外わ専門技術だけを専攻するのである。

これわ現在の専門學校の中の或る種類のもものと大體同じであるが唯異るところわ他學科をしないで専門科だけの技術を習練することである。

これを終つて學問として特に研究したい要求の起つた人わ大學に入るなり、研究科（大学院）に入るなりして自由に研究すればよい。そおゆう人わ極少いものである。

〔一九〕 實業學校、地方資格試験

實業學校わ修業年限を五箇年とする。現制度の通りである。各の内容等わ一々具體的にわ論じない。やがて小學校が充實するから大いに面目を改めて程度の高いものになるであらう。其れわ教員の素質が改造されて以後の問題に屬する部分が多い。

實業學校を出た者わ師範學校や大學や高等技術學校にわ連絡出來ないこととする。但し特に入りたい者わ先づ男女中學校の卒業試験たる現在の専門學校入學者檢定試験に準ずる國家試験を受けて合格後のことにする。勿論來るべき時の中學校の内容わ現在の中學校や高等女學校の程度よりわ遙かに高いもので學科目も多くなりその課程も引上げらるであらう。それわ教員の素質が優良になり従つて小學校の成績が斷然優秀になるからである。

徴兵に關する特典等わ中學校と同一にすべきわもとより其の所である。唯現在の様

に實業學校出でも專檢を受ける必要なしに、上級學校を受けられることわ如何にしても不合理である。實業的に有力であるだけ他に缺陷があるのであるから内容を重んずる新時代の學校系統としてこれわ最後で完成のものとし入學者わ始めに自分の社會的地位を十分自覺して學校を選ぶべきであり父母も慎重に子供の性能と境遇等を考へてする様になるべきである。

これら學校の卒業生が資格試験を受ける時わ地方資格試験だけの受験資格を與える。例えば電氣なら下級技術者の試験だけで各府縣（現在わそおでなく皆逋信省であるが）で行ふものである。もし上級技術者の試験を受けたいならば先づ中學校卒業試験を受けてから受けることにする。

〔二一〇〕 女子教育論附 女子の理想及び服裝論

女子中學校わ名稱わ高等女學校といつても何等差支ない。

女子中學校についてわ大いに論ずる餘地がある。なぜなら現在の高等女學校わ現在の中學校に比して比べものにならぬ程の程度の差があるからである。

女子中學校わ第一に修業年限を男子と同じく五箇年としなくてわならない。教科目課程共大體男子と同じにせねばならぬ。國民大衆の一半わ言うまでもなく女子であるから我が國位國力を保ち、上げるについては是非共片跛の教育であつてわならぬ。女子に低い教育しか與えないならば女子の思想わ淺薄となり人物わ小さくなり到底新時代の男子の配偶として満足されるわけにわ行かない。且つ母として子供を教育する任に當らねばならぬのであるから貧弱な教養でわ如何に教員の素質を改善しても結局子供の發達わうまく行かない事になる。又家庭の主婦としても人格の重みの上でも科學的

思慮の上でも頗る缺陷のあることに終らざるを得ない。

高等女學校の卒業年限を増し科目數を増し又課程をずつと高尚にしなければならぬ理由である。

現在の高等女學校の科目わ

修身、國語、外國語、歴史地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操

であるが新高等女學校や新中學校と同じく修身、國語、漢文、外國語、歴史、地理、植物、動物、礦物、生理及衛生、物理、化學、法制及經濟、圖畫、體操、唱歌、哲學概説、心理及論理を課し中學校の、教練、武道の代りに裁縫、料理、手藝、家事、教育を課することにする。これわ科目であるがこれが課程として程度を著しく現在の高等女學校の課程よりも高めて男子と同一にするのである。

繰返して言う。科目の事わ大した事わないが課程が現在の様に低いものでわどもにも仕様ない。精神科も自然科も實に情ない有様だ。科目の内容をずつと引上げて男子

と同程度にしなくてはならぬ。

將來生活の様式がもつと分業化されたら家事や裁縫も省いてもよいであるわが當分これわ女子として省かないのが至當である。

上級學校に行く女子に對してわ男子に比べて負擔が大きいのであるがそれわ選ばれた女子、特殊の女子と見るべきであるから其位の犠牲わ止むを得ない。

現在の専攻科や高等科わ廢止する。

× × × × ×

現在の様に高等女學校の教員に特例を設けるのわ女子教育の實質を甚だしく低下させる所以であるから全然男子中學校や實業學校と同じ資格同じ待遇とする。

たとえば教員の平均給が安かつたり、小學校本科正教員と教諭になれたりする様な二等國待遇わ全廢しすべて専門教員を充てるのである。

かくして中堅國民大衆たる良妻賢母の出現も期待し得るわけである。近來高等女學

校の教育の中途半端な不徹底なことについて内外から不満批難が起つているのわ無理ならぬ次第である。あまりに淺薄な餘りに形ばかりの名ばかり高等で實の乏しい状態から一日も早く脱出さなければならぬ。

日本の女子を決して性能に於てそんなに男子に劣りわしないのである。それを後天的にひどい差を生ぜしめる必要が何處にあるか。

今わ昭和の聖代だ。もう因襲思想から斷然躍進すべき時だ。

右の科目と課程で女子として人として中等教育わ充分であるが、過渡期に處する道として特に料理なり裁縫手藝等を、もし練りたい者わ技術學校に入つて自分の學びたいものだけ自由に習えばよいのである。

さて以上によつて國民大衆の一半たる女子大衆の中堅部わ殆んど完全に出來上る基礎を確立する。良妻として賢母としての出發として遺憾ないものである。男性の文化と生活とを理解し人生の苦惱を共に分つに足りる者となり得るのである。男女で文化

があまりちがつている事わ不幸の因となることが多い。勿論女人文化など望めない。故に女子教育の改善わ女性の幸福のためと同時に男性の幸福である。勿論國家社會からいつて國位國力を高め強め社會の福祉を増進する根本の道である。

であるのに何だか女子教育を盛んにすると女子が自覺をもつて來て其れわ女子の不幸になり勿論男子の不幸になり國家社會にも有害無益のことであるとゆう様に考えている人が随分多い。かような人わ其人自身が如何に捉われた物質的な（本人わそれを精神的などゆうであるが）生存ばかりを念頭におく狭い卑しい生活をしているかを現わしているだけだが、穩健な改革運動としてわ非常な邪魔である。

女子で中學校以上の高等教育を受ける人わ當分そんなに多くわないである。それわ女子の社會的地位が當分然らしめるのが主で、女子の自覺や文化の低いことが副原因である。なにしろ高等教育に進む者が多ければ多いほど結構だ。當分少いから急激に國家が學校を増大しなくも濟む。大學校、師範學校、高等技術學校わ勿論共學制度

で宜敷い。

序ながらゆうが日本の社會状態でわ當分中等教育わ單學、小學教育と高等教育とわ共學とするが適當である。

左に東京聯合婦人會長たる女醫吉岡彌生氏の女子教育觀を記す。室蘭毎日新聞の昭和四年九月十五日紙上に載つたものである。大體私の賛成するものである。

新時代の妻

夫々同等教養を要し

健康な肉體の所有者たれ

私がもし男子であつたなら、どんな婦人と結婚をするか！ 先づ自分の選ぶ婦人としてわ第一に充分に教養を具えた婦人でなければなりません。なぜならばやがて母となつて子女を養育する場合に教育のある母親と無教育な母親とでわ育てられる子女に如何なる影響を與えるかを思ひからであります。

又夫と同等位の教育を受けた婦人でなければ生涯ともに夫婦生活を営む上にわ好伴侶とゆうことわ出来ませぬ。例えば夫わ大學程度の教育を受けて居り妻わ女學校程度の教育より受けていないとすると、自然と夫婦の思想的方面にわ隔りが出来てきます。

x

そして長い間にわ夫婦生活の上に破綻が起ることなどがあります。常に夫の職業を理解してそれに適した才能を働かせ、子供に對してわあくまで慈母であり、賢母であることが望ましいと思ひます。そして新夫婦といえども兩親とわ別居生活などしないで保守的になり易い親の思想を理解していわゆる故きを温ねて新しきを知るとゆう様に何事も老人と共に語りあふ事の出来る婦人でありたいものです。然し如何に教養あるからと言つても終日讀書で暮すよな婦人でなく周圍の事情の許す限りわ一定の職業に携わることが好いと思ひます。主人が歸宅して來た時に靴下をぬいで上げたり着物を着換えさせたりすることわ女中が居れば女中でも出来ますもしも私の妻ならば、

それよりも職業婦人となつて働いてもらつた方がどんなにいいかと思ひます。家族の晩餐の後にわ夫婦して時事問題に就いてお互の意見を發表することが出来る位の常識があつて欲しいと思ひます。それで職業婦人だからと言つても偏狭な頭にならず、或る時にわ主人が歌を歌えば妻も愉快に踊の一つもおどり出す位の粹な心得も必要であります。

x

私が妻に對する服装の好みを言えばみるからにきりりとした、そして澁味のある姿でその中に崇高な感じの出る服装をつくつていて欲しいものです。容貌も伶俐的なまなざし何時も林檎のよおな頬をした健康そおな肉體の所有者で、且つ美人を望みます。それで最後に望むことわ収入の半分位何時でも投出して社會事業のために盡す心掛を持つてゐる婦人を切望いたします。

以上

尙序ながら女子の身仕度について述べる。左に東京朝日新聞昭和四年九月二日の現

代世相展望に清瀬一郎さんが言われたことわ全く同感である。併しこれわ制度に定めらるわけにも行かないことで生活の延引ならぬ必要がそれを實現して行くのであるから徐々に實現して行くであらう。今十五年もしたら女子わ和服と洋服の二重生活で今の男子の多くの様に困るだらう。そしてそれを通つて洋服斷髪に行くであらう。日本髪も美しいがあれがなくなつたら日本婦人美わなくなると考へるのわ大早計だ。必要が改良の母であることわ婦人洋装についてもそおだ。關東大震災後形式よりも實用を主とする様になり婦人も洋装の便利を體驗したのが今日流行の素地となつたのである。主に男物だが柳原の古着屋町わ一軒なし古洋服屋と化した。

清瀬一郎氏の文わ左の通り

近時の流行で一番の秀逸わ婦人の洋装であると思ひます。皆様わあれを一寸こつけいにお考へになるかも知れませぬがそれは一時の事です。だん／＼なれてくれば、少しも可笑しくわありませぬ。すべて、物事わ時さえたてば奇異の感わ去るものです。

例えばセメント造りの高べい位殺風景なものがありますまい。あれでも二三十年も経つて、こけでも生え又色もさびて来れば雅致も自ら出て来ます。洋服もだん／＼日本化して、日本婦人の體格にあうよおになれば遂にわあれでなければならぬと思お様になる日が来ると思います。試みにお互を今の社會から離れた場所に置いて考えてご覧なさい。従來の日本婦人の和服とゆう位、怪しからぬものがありましたよおか。あの太い帯わどおです。高い下駄わどおです。油と元結で締め上げた頭わどおです。一寸他物が觸るれば崩壊します。日本婦人わ常にこれを氣にしています。むやみに長い袖わまだよいとして裾わ殊更に前が開くよおになつております。蹴だしと稱して下衣わ時出るよおな趣向であります。どおも威心が出来ませぬ。右の様な和服わゲイシャ、ガールと共に必ず亡びゆくべきものと思われれます。

男子の洋服わ軍人と官吏とから流行し始めたものでしよお。婦人の洋服わ看護婦が始めであります。たゞ今日の流行を見るに至つたのわ全國の高等女學校が海老茶はか

まに代あるにコート、エンド、スカートをもちてしたからであるおと存じます。これ等の事につけても思い出さるゝのわ明治天皇と昭憲皇太后の御聖徳であります。皇室におかせられてわつとに明治初期よりして洋装を御採用になつて居られます。私どもの小學時代（明治二十四五年）より常に禮拜した皇后陛下の御眞影わ御洋装であらせられました。昭和の婦人たるもの速かに丸帯、丸まげ、長じゅばんを棄て去つて、洋装と斷髪と短靴で嫁いりすべし。（四、八、二二）

〔三二〕 男女中學校論

先づ男子の中學校を論じる。これについてわ餘り論じなくてもよい。なぜなら男子の中學校の形式わ現制度のもととそれほど差がないからである。上級學校の連絡わ中學卒業をしてからのことにする。それわ現在の制度でわ高等學校高等科の課程と中學五年のそれと重複する所があるから秀才わ四年修了でもいゝわけであるが本論の中學校わ上級學校と重複しないことになつてゐるから當然の歸結である。

中學校わ男女共中堅國民を養成するを目的とするもので全く完結したもので上級學校への準備のための學校でわない。勿論最もよい準備であるが斷然意義を異にするのである。かくゆうた所で教員が立派なものにならねばだめな事わことわる迄もない話である。

教科目わ現在

修身、國語、漢文、外國語(英、佛、獨の中一)、歴史、地理、數學、植物、動物、礦物、生理及衛生、物理、化學、法制及經濟、實業、圖畫、體操、唱歌
であるが本書の系統のものでわ更に

哲學概説、心理及論理

を増加するのである。小學校の成績が頗る優秀になるので中學校に入學する時に既に現在よりも遙かに有力である上に中學校の教員わ専門教員でこれ又現在の中等教員よりも遙かに優秀なものであるから哲學概説、心理及論理の二科を加えても十分に消化出来る。尙現在の科目に於ても内容を充實する事が出来るのであるが殊に數學わ新主義によつて微分積分まで研究し得るのであるから進んで深い學問を研究する人の數學的應用の基礎わ十分に出來又數學としての視野も高等方面までひろがるのである。

〔三二二〕 技術學校 附 補習學校

小學校八箇年卒業者に對して主として卑近日常の技術を教授する學校も必要である。修業年限わ一年乃至三箇年とする。

この種の學校にわ家事、裁縫、手藝、簿記、機械、工作、料理、タイプライター、語學、音樂、等に關する學校で校長わ必ず普通教員とし教員は資格を限定せず採用わ全く校長の裁量に任せる。

この種の學校でわ専ら卑近な技術を教授し一週一時間の修身と三時間位の體操の外わ全く専門の技術のみを學習させるのである。能率わ十分に上るのである。現在これに類する學校の様に専門以外の學科の數を増して中途半端なことわしない。それでわ常識があまりに低くて困るとゆうか知れぬが國民教育八箇年の教育成績が頗る舉がつているので絶対にその心配わない。

中學校を卒業したものや女子中學校を卒業したものが卑近の技術を學びたくて入學することも出来る。頗る便利なものである。例えば簿記なり、タイプライターなり、裁縫なり手藝なり、料理なりについてである。

かくして女子中學校も安心して大體中學校と同一の科目課程を履修して人としての教養を深める事が出来るのである。現在の高等女學校わ無理に充ちていると言わねばならぬ。故に虻蜂とらずに終つていて高等女學校無用論さえ起つているのである。

補習學校わ農村にだけ設けられるであらう。農村子女の大多數わ小學校卒業後農務に従ふのであるが長い農閑期を實際的の學藝に利用する事わ良いに違ない。閑散の故に身を持崩させない事にも役立つ。教員わ勿論其町村の普通教員を充てる。何しろ新しい學校系統でわ補習學校わ軽い。農村に副業が盛になれば始ど不用になる。小學校教育が徹底するから、田舎で副業もなく長い農閑期に無聊に苦しむ場合のほか補習學校わ不用である。仕事に勵んで一方青年團員處女會員としての活動だけで澤山だ。

〔三三〕 研究科(大学院)のこと

大學にわ現在と略等しく二年乃至三年の研究科を設けることを本則とし自由討究者に便宜を與へることとする。大學の卒業生専門教員普通教員高等技術學校卒業生わ研究科に入ることが出来る。研究科の内容わ教授の研究指導だけで餘は實驗と參考書とによつて自由に討究するものとする。何故にこれが必要かといえれば個人でわ實驗の裝置が出来ないし參考書も一般圖書館でわ専門研究にわ不便のこともあるからで教授の指導を受けることと共に研究科の三部門である。

序ながら論ずるが博士號を廢す。學位論わ別に少しく論ずるが博士なんてとゆう稱號わ文化の低い時代の獎勵的意味以外に存在の理由のないものであるからだ。學藝に深い人わ著書なり發明なり其他できつと偉いことがあらわれる。丁度現在の藝術家に博士號的の何物がなくともよい様なものだ。其の方が弊害がない。つまりぬ博士の何

と多いことか。かくして博士がなくなれば研究科わ博士とゆうこけおどしの看板のために入學者を見ることがなくなる。要するに本當の實力だけで立つ様になる。それが昭和生活の基調で教育改造の的でもある。

〔二四〕 國家試験論 附 博士號廢止論

昭和聖代に於てわ人材を棄てない様にせねばならぬからすべて或る公的職業資格を得たいものわ皆國家所定の試験を受けさせることにする。これわ教員資格の所でずでに述べた通りであるが醫者も官吏も皆國家試験を通過せねばならぬことにする。(學校を卒業しただけで公的職業資格が得られることわ能率をさげ、又社會思想を惡化することになる。)

其處で試験法であるが徒らに記憶に訴える様な機械的試験わ勿論排斥せねばならぬ。其資格相當の學藝についての基本を網羅したものであればよい。故に何等試験地獄とゆう様なことにわならない。相當學校卒業者であるなら優に合格出来る筈だ。右の様に國家試験制度が確立すればとてん式に學校さえ出れば無力でも資格を得られるとゆう現在の有産階級偏重の社會問題も跡を絶つことになる。資本あるものだけ

が特に有利な條件に恵まれるとゆう事がなくなる。従つて各人わ自己の性能を自覺して來るから無理をして又無暗に學校教育を受けることが減るので入學難とゆうことも少なくなるのである。

(1) 國家直接の資格試験

凡そ次の如き種類の國家試験わあるべきである。

- A 中學校卒業程度檢定試験(現在の專檢に當るもので職業資格試験でわない)
- B 普通教員資格試験(師範學校卒業者大學卒業者わ勿論中學校卒業者受験出来る)
- C 専門教員資格試験(大學卒業者師範學校卒業者わ勿論中學校卒業者も受験出来る)

E 官吏、辯護士、醫師等資格試験(中學校卒業以上の者わ受験資格がある)

(2) 地方委任の資格試験

現在府縣等に委任されている産婆、看護婦、代書人、鐵道其他の書記試験等の資格

試験は現代の社會状態で現在の通りで何等差支ないのである。

博士とゆう稱號について一言の要がある。本質的にわ博士とゆう稱號があつても何等益するところがないばかりでなく、つまらぬものもあるので廢すのが當然である實に考えて見れば馬鹿馬鹿しいものである。不正の者やつまらぬ者が交つていけば大衆の思想惡化にもなるからこんな過渡時代的の貧弱な稱號を廢すべきである。博士でなければ教授にしない不文律が帝國大學にあつたものであつたが近頃變つてきた。宜敷そもあるべきものだ。今迄わ博士といえはかなり有利であつたが一年増しにそれも無くなつて來ている。何かの事に近頃わ何學士と書かなくなつた様にやがて何博士と書く野暮もなくなるであらうが、國家としては無益有害な名を廢すべきだ。

〔二二五〕 入學試験論

入學試験を論じるにも二様ある。即ち現在の制度としてと改正案の學校系統に於けるものとである。

(1) 現制度としても入學試験について論ずべきことわ多い。中等學校の入學試験は田中内閣時代に小學校長の内申によつて入學者を選考する様になつたのであるが、これわ些少の弊害が、ないでわないが是以上の名案わないと思ふ。併し大都市に於て應募人員が入學所定人員をひどく超過する學校に於てわ此の制度を採用すべきでない。入學試験を行ふがよい。しかも科目の數を多くしてやるがよい。このために志願者の精力を消耗させる事わ大であるが國民の一小部分の事であるから大した問題でわないのである。一般中等學校でわ志願者の出身學校の事情もかなりよく分つているので小學校長の内申を主として差支ない。又試験したところで小學校長の内申を主としたと

ころでどおせ落ちる者わ落ちるので少數のものであるから入學試験制度として入學準備のために精力を消磨させることわ國家の大問題である。人生わ長く、國家わ永遠である。徒らに子供の精力を失くさせてわならぬ。

受持の訓導や小學校長何だか手心がある様に思われて困るとゆう立場から、又中等學校でわ一年生の學力が低下するとゆうことから試験説を採るものがあるが人間と國家との考察の乏しいことから出た淺見である。

男子の中等學校殊に大部分を占める中學校に於てわ進級期に落第とゆうものがあるから假に小學校長が不正な申告をしたとしても一學期なり一學年なりの中にわ暴露されるから心配わない。

唯高等女學校の場合にわ困つたことがある。一旦入學を許可されてしまえば落第とゆうものがない。嫁入條件だけの高等女學校教育に於てそおなるのわ止むを得ないであるが小學校長の申告に不正があつた場合に其れが暴露されることが無い。勿論女

學校の教師にわ分るわけだが單に分るだけで影響わ殆どない。

併し右の様な困難があるとしても女學校だけに入學試験を行ふことわ慘憺たる準備學習をさせることになり將來中堅國民の一半たる女子の精力を徒費させ、又本質的の發達を沮碍することになるから入學試験わしないがよい。入學後落第もある様にといつても到度駄目であるから收容數を増す設備をなし、志願者の九割か少くても八割以上は入學出来る様にするほか途わないである。かくすればお話にならぬほど低能でない限りわ皆入り得ることになる。

高等學校専門學校大學等わ在來通り入學試験をするがよい。特權が學校にある間わ入學志願者が殺到するから試験するよりほかに途わない。中學在學中の成績と高校入學試験の得點とを對等と見て入學者を決定するなんとゆう事わ各中學の成績に大なる懸隔があり、應募府縣が廣汎にわたるので中學在學中の成績を平等に見ることわどおしても無理である。

入學試験論わ學校から特權を取り、學校の系統を本書で上來論じた様に改定しない間わ駄目である。

(2) 本書案の學校系統として入學試験論をする。先づ學校から特權を取去るから志願者が激減する。かくして残つた志願者わ兎に角何かの意味で優秀な能力の所有者であるから入學試験をしても何でもないし競争率も少いから本質的な發達を害するほどの入學準備をしなくてもすむ。又志願者の大多數を收容し得る設備も造作なく出来る。

併し國家なり地方なりの財政状態が志願者を收容し切れない時は必ず入學試験によつて入學者を決定すべきである。

こゝに繰返さねばならぬことわ、學校を卒業しただけでわ何の公的職業資格も無いとゆうことである。

〔二一六〕 革新論の實現性、傍系教育の事

私わ思ふ。すべての改革運動や改革論の唱導わ其れをしないで放つて置いても二十年や三十年の後にわきつと時勢進歩必然の結果大體唱導者が企圖する状態が現出する様なものであらねばならぬと。殊に永遠の性質をもつた重要な事柄の革新を企てる場合に於て考えねばならぬ大切な條件である。社會國家の公益幸福文化の進展を目的とする教育革新論の如きに於て一層この注意わ必要である。かまわないでおけば何年たつても現われて來ない様な事柄わそれが合理的な善美なものである限り無いのである。私わ國民大衆の性善論に立つてるので、かまわないで置いても十年か二十年の後にわ私の唱導する教育革命が現出すると信じている。唯十年かゝつて來る良い事を二三年の間に來らせたいと思つて提唱するのである。どお考えても間違でないといわ信じているのである。子供の教育などでも何等有害なことなしに性能を早くに順當に

發達させたいと考える事とよく似ている。子供の場合わ社會の場合とちがつて或時期に發達させない性能わ其個人としてわ一生あらわれずに終るから一層重要でわある。社會わ國家わ交通不便時代だと其の發達が一寸個人の性能發達の關係によく似ているが現在及び今後わ文化は孤立するわけに行かないので如何に因襲の弊を受けても遅かれ早かれ同一の方向へ進展の道を辿るのである。必然的のもので動かし難い鐵則である。自然法と同じ嚴たる存在である。故に文化の進展方向にある合理的の状態なら力によつて實現を早める事が出来るに相違ない。嘗ての文化運動わ皆こおしたものであつた。ドイツの普通教育でも日本の維新後の教育革命でも軍隊教育でもそおでないものわない。現在支那の教育革命の悩みも又この道を行つていゝものだ。如何に舊勢力や反動家が泣いてもわめいても世界人類の文化方向わどし／＼如何なる社會にも其の原理をもつて壓倒して來る。早かれ遅かれきつと來る。そして何時になつても來ないらしい状態を以て目的として實現せしめ様とする運動わ又其の論わもお昭和時代にわ

存在權がないものである。

私の昭和 교육論一名國家教員養成制度革新論思想問題社會問題根本的解決策わ舊くて不合理で放つて置けば實現して來ないものか、文化の近い行先に放つて置いてもきつと現實になつてくるものか。取扱つた問題わ實に大きい國家社會の盛衰に關する事柄である。

私の論わ外國に例があつて其れを紹介翻案したものでわない。全く私の人生觀世界觀文化觀日本觀現代國民大衆生活觀から滲み出たもので二十餘年の教員生活の間から體感したものである。

傍系の教育として少くも青年團、青年訓練所、處女會、圖書館の事、及び幼稚園の事を述べるべきだが、皆他日に譲つて、正系だけを論じた。これが基礎だからこれさえ革新出來れば傍系わ自ら出來る。

〔二七〕 結 び

人類の文化に貢献することも國家社會の興隆を致すことも各個人を幸福に有力に生甲斐あらしめることも根本わ幼少年時代に當爲の教育を受けることにある。

昭和聖代わ教育革命のなされるべき時機である。人生わ長い。國家わ永遠だ。因襲と目先の利害に捉われず百年の大計を實行すべきである。

日本國民性の發揮、思想の善導わ教育の充實を措いてわ駄目だ。教育充實の途わ本書に詳論した所で要わ下の通りである。深く日本帝國の健康な發達を祈る。

教員の素質向上 教員養成制度の革命。

學校教育から特權を除去する。

學校の系統建直し。

女子教育の目的建直し。

以下 (終)

昭和五年二月十六日印刷
昭和五年二月十九日發行

昭和教育的革新論

正價金壹圓貳拾錢

著 者 佐々木 藤之助

發行者 阪 本 眞 三
東京市神田區西小川町二丁目三番地

印刷者 寺井藤左工門
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀 英 舎
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

不 許
複 製



發行所

東京市神田區西小川町二ノ三
振替貯金口座東京八七貳番

大同館書店

明治教育社編纂 (類書中の元祖文檢必備の要書)

文檢 國民道德要領 (卅五版)

四六判最上製美本 金貳圓五拾錢 送料十八錢

文檢 教育大意 (廿五版)

四六判最上製美本 金貳圓五拾錢 送料十八錢

本書國民道德要領教育大意は姉妹篇で共に絶大の好評を博しつゝあり内容特色は合格者の經驗を基礎として編纂したる事、そして受験者に都合よき様に記述したる外試験委員の説を隨所に擧げたる事、問題解答を提げ類似問題を多く載せたる事、文章の平易なる事等にあり、されば文檢の受験者たるものは勿論各府縣の小学校教員檢定試験者にとりて無二の好参考書たる事は弊館の自信を以て推奨せる所以なり。

教育學術會編纂 (類書中の元祖文檢必備の要書)

文檢 教育勅語成申書解義 (拾九版)

四六判最上製美本 正價金貳圓 送料十八錢

文檢 國民精神作興詔書解義 (最新刊)

四六判最上製美本 正價金貳圓 送料十八錢

本書は文檢受験者の参考書たらしむるを目的として著述せるのであるも内容は平易簡明何人にも一讀直ちに了解し得る様に叙述し解義の仕方は試験委員の意見を十分に汲んで編纂者の獨斷に陥らぬやうに努めた、毎年の文檢試験には必ず二三題は出されるのであるから受験者は必ず精讀せねばならぬ、此の二冊を併せ讀まば勅語や詔書中でのん問題が出来るのであるから云ふ事は斷じて無い確信してすむ、本書は英語國語を初め家事及裁縫手藝等の文檢受験準備の諸學校の教科書又は参考書として最も適當なるで書ある。

東京市神田區 大田館發行 振替 貯金 口座 番 八七二 八七二 番

石川 誠氏新著

東京神田 大同館發行

五版 萬葉集古今集選釋

四六判最上製本 全壹册五百餘頁 貳圓八拾錢 送料十八錢

(和歌入門者の必讀書) 本書は古來歌人の金科玉條として吟式し來つた萬葉集・古今集・新古今集三部檢受驗者諸君・各種學校受驗者・學生諸君及び和歌初學者の便を計り懇切丁寧に註解を施したものである。猶三歌集の詳密なる解題和歌史概要及三歌集參考書の解説を添へたものである。されば本書一巻で和歌史中の太古から現代に至る各時代の作例數百首を通觀し得る正に歴代和歌集を兼ねたものと云ふべき書なり。

文學士 小林好日氏新著 (文檢受驗者必讀の要書)

四版 新體國語法精說

菊判最上製本 全壹册四百頁 貳圓八拾錢 送料十八錢

本書は最も進歩したる科學的方法の下に試みられたわが現代語の研究書であり文語から口語に至る歴史的變遷を顧みられた比較對照法である。音韻論品詞論から文章法論に至るまで懇切周到なる説明を施したもので國語の記述的・心理的・原理的・論理的・文法的である。本書は又半面から見れば標準語の研究書であり標準語問題の理論的研究である。殊に心理的・初等中等を問はず國語教授に携はるもの必ず座右に備ふべき参考書なり。

甲斐 一二著 文檢 新教育說撮要 最上製 (新刊) 正價金貳圓 送料十二錢

本書は純近東西洋新教育説の要點を簡明に叙述し説明し批判せるものである。密に文檢受験者のみならず教育上の新學説の研究に志ある人に取りては實に唯一無二の好資料たる良書である。

渡部政盛監修 文檢 教授學習法講義 最上製 (再版) 正價金五圓 送料廿八錢

文檢に於ては近頃學習に關する問題や學習本位の教授法の問題が頻りに出る而もこれに十分應答し得るものはない。本書は之等教授法研究者の爲めに叙述せるものであつて内容は平易明快要領よく而も受験の立場から見ても一も忽せにすべし。

三浦 藤作著 國民道德要領講義 最上製 (再版) 正價金八拾錢 送料十八錢

三浦 藤作著 教育大意講義 附 教育史 最上製 (再版) 正價金參圓 送料十八錢

本書は文檢受験者又は教育學倫理學研究者のために執筆せるものである特色とする所は(一)最新の思潮と研究の結果とを汲みたる事(二)最も組織的系統的に叙述したる事(三)文章が極めて平易流暢たる事等である國民道德・教育大意の教科書としても参考書としても絶好の良書なることを斷言す。

渡部 政盛著 文檢 教育史 最上製 (八版) 正價金六圓八拾錢 送料廿七錢

本書は日本東洋西洋とも古代より現今に至るまでの史實を全部網羅したるもので内容は系統的にして簡單明瞭ならん事に努めたる外文檢受験者に取りて隨一の教育史研究用書である本書一冊で十分合格し得る事云ふまでもなし。

中澤美治著 活動寫眞と教育 最上製 (新刊) 正價金貳圓 送料十二錢

本書は活動寫眞と教育との關係について其相互の根本的原理價值應用から學校教育社會教育上の實際的方策等に亘り具體的に詳細に論述したるもので教育者及讀者必讀の良書なり。

中村古峽著 變態心理の研究 最上製 (九版) 正價金五拾錢 送料十八錢

本書は變態心理を飽くまで學術的に且つ通俗的に説明したる我學界唯一の新著にして特に世上の山師が心靈を名として諸種の關着手段を行へることを素破抜きたる一章は最も痛快を極む。

羽太銳治著 性慾教育の研究 最上製 (拾參版) 正價金參圓 送料十八錢

本書の内容目次を掲ぐれば：少年に性的知識の開發を必要とする理由：性慾教育の當事者：性慾教育の範圍並に方法：兩性に分かる原因：性的機關と性慾：生殖器の構造及異常：男子生殖器：女子生殖器：兒童の性的特質：性的現象：病的性的現象：等細目を分ちて詳細に叙述せるものである。

宮本幸惠著 行詰つた現代の圖畫教育 最上製 (新刊) 正價金參拾錢 送料十八錢

現代の圖畫教育の現實と理想とを詳細に考察し解決して兩者の折衷即ち現實的理想主義を提唱したものである。圖畫教育に従事する人の必讀書である。著者は美術學校出で實際教育に従事せる新進の學者である。

宮本幸惠著 彩色の研究と其取扱法 最上製 (五版) 正價金八拾錢 送料十八錢

美麗なる石版廿五度刷の色圖十六葉。調和表實驗圖解は如何なる素人と雖も一見して彩色のグラシマーを會得し衣食住或は眞善美の各方面に容易く結着ける事が出来る。大好評を博して各方面に歡迎せるものである。

小林 好日著 **新體國語法精説** 最上製 (四版) 金貳圓八拾錢 送料十八錢

本書は一名標準語法精説と云ふ文檢受驗者が日本文法研究上必要不可欠からざる参考書である内容は最も進歩したる科學的方法の下に試みられた我現代語の研究書であり文語から口語に至る歴史的發展を顧みられた比較對照語法である。天下の標準語問題を取扱つたものも少い今日に於て國語問題に思を潜める者は必ず一通讀しなければならぬ。

吉波 彦作著 **漢文** (白文訓讀) **研究要訣** 最上製 (三版) 正價金參圓 送料十八錢

文檢國語漢文科受驗の秘鍵を握つて一躍難關通過の榮冠を獲んとするの諸彦は先づ本書を看よ。本書は著者が多年の經驗と豊富な材料とを以て新に受驗者に提供せる他に類書のない要訣である。第一篇は白文訓讀を第二篇には復文作文を第三篇は支那時文を解釋したる國漢文受驗者には最新の捷徑である。

植松 安著 **改訂古事記新釋** 最上製 (拾六版) 金貳圓五拾錢 送料十八錢

難解なる古文を最も平易なる假名交り文に書き下し振假名を附し詳細なる語義と其索引を添ふ。著者か國民心理を基礎として神代と上古との風俗人情に下したる評論的文章は各段章に顯はれ大和民族發展の由來を明にし國民歸嚮の中心を開く是れ本書の特長なり世界の日本東洋の日本我等の日本これをこの書に得よ。

植松 安著 **紀記の歌の新釋** 最上製 (三版) 正價金貳圓 送料十八錢

古典の國民化これは私の大に望む所であつて先に「古事記新釋」を著けたか今又こゝに紀の歌のみに就いて書いて見た。古事記は文學日本書紀は歴史といふ著者の見方である本書にはもとより新論としては無いが只現代の一般人士が讀むには便宜であると思ふ。

吉波 彦作著 **精要韓非子詳解** 最上製 (第貳版) 金四圓八拾錢 送料十八錢

本書は韓非子の全卷中より名篇卅五篇を選釋し之に篇旨・訓讀・語釋・通解・評釋の五段に分ち每節詳密叮嚀に著者が其蘊蓄を傾註して韓非子の精髓を闡明したものである文檢受驗者・高等學校各種專門學校生徒の参考書として唯一無二の好著である。

宇野 哲人著 **四書講義大學** 最上製 (貳拾版) 金貳圓參拾錢 送料十八錢

宇野 哲人著 **四書講義中庸** 最上製 (貳拾版) 金貳圓八拾錢 送料十八錢

儒教の目的は大學に備はり、儒教の根本義は中庸に明かである。かくて學府の二書は經となり緯となり。互に相待つて儒教の眞相を傳ふ。著者は如上の見解を以て先に大學講義を著し今亦中庸講義を著す。大學に由て既に儒教の目的を明かにせる大方の士は謂ふ更に中庸に就いて儒教哲學の眞面目を了せよ。

森山 右一著 **文檢用史記選釋** 最上製 (第貳版) 金參圓五拾錢 送料十八錢

本書は著者が積年苦心の體驗により史記百三十卷中より壹百の名篇佳章を厳選し先賢諸名家の長を採りて詳解を下せる名著也史記研究入門の書は本書を於いて他になし。有益の参考書也。

龍澤 良芳著 **文檢用左傳選釋** 最上製 (第貳版) 金參圓八拾錢 送料十八錢

支那古典中最も難解を的て目せられる左傳は文檢受驗の際の必讀書である本書内容は讀方講義解參考の四欄に分ちて丁寧親切に叙述せる文檢受驗には本書一冊で他に必要なしと言ふまでにした他に絶対に類書の無い好参考書也。

野村 限畔著 **ベルクソンと現代思潮**

四六判 (九版) 金貳圓五拾錢
最上製 送料十二錢

本書はベルクソンの思想を中心として現代の哲學及生活の梗概を述べたものであるだけに獨りベルクソン哲學の特色と價值とを學び得るのみならず弘く哲學的思想を解する上に於ても亦尠なからざる價值がある。

島 爲男氏著 **ベルクソン哲學と現代教育**

四六判 (最新刊) 正價金貳圓
最上製 送料十二錢

ベルクソンは今尙新しい哲學的生命の源泉である近時ベルクソンは哲學者のみならず心理學者・教育學者の研究者の注意の焦點とならうとしてゐるのは理由ある事である實にベルクソンは體驗主義の別備隊にして今後大に私共によつて研究せられねばならぬ、寶庫でなければならぬ。

稻毛 詛風著 **オイケンの哲學**

四六判 (十三版) 金壹圓六拾錢
最上製 送料十二錢

オイケンは現代思想界の明星也從つて苟くも思想界に關し精神事業に従事する者にして彼を知らぬ人は未だ到底哲學宗教道德教育文明歴史乃至生活を論ずる資格なし 現代生命に觸れ生き甲斐ある生活を生きんとする者は本書を讀め。

大關増次郎著 **カント哲學批判**

四六判 (五版) 正價金貳圓
最上製 送料十二錢

大關増次郎著 **カント研究**

菊上製 (三版) 金七圓八拾錢
最上製 送料卅六錢

哲學研究者がカントへの雜一の手引書。近代思想のことごとくが或はカントを批判し或はカントを祖述しないものは無いのであるから近代思想を極めるものは必ずカントまでさかのぼらなければならぬ本書はその手引書である。

仲原善忠著

理法 **日本地理原論及細説** 菊上製 (三版) 金五圓八拾錢
最上製 送料廿七錢

今までの地理學教授は可成無味乾燥なもので地理學それ自身のもつ興味は大なるにもかゝらず學生の心は餘りそれに向けられてゐなかつた本書は全然新しい試みをしたもので我國の一の單位として地形氣候産業都市等の各項を特色づけて叙述してゐる人と地に關する因果關係等を明かにし學生の自發的研究心と興味とを刺戟する事につとめてゐる誠に農業の部を繕いてみるとわれわれは我國の農業の概略農村疲弊の因農村問題の起因等まで知ることが出来る新方面を開かうとする著者の努力は尊い。——(東京日々新聞批評)——

三村信男著 **地理學通論 地文學の部**

菊上製 (四版) 金六圓八拾錢
最上製 送料廿七錢

三村信男著 **地理學通論 人文學の部**

菊上製 (四版) 金六圓八拾錢
最上製 送料廿七錢

地理學は其の範圍頗る廣く之が研究に多大の不便と苦痛を感じるものであるしかして其の理由の一として綜合された地理學の良書のない事であるが著者はこゝに思ふ所ありて各種學校の地理教授者には勿論文檢受験者の爲に僅の努力にて多大の習得を目的として最新の學說に基述されたのが即ち本書である本書は地文及人文地理事項を細大漏さず之を詳細し百數十個の挿畫によりて内容を明かにし且つ終りには詳細なる索引を附し之を利用する時は本書は實に地理學の寶典となるものである。

栗原寅治郎著 **日本産業地理精説** 菊上製 (五版) 正價金四圓
最上製 送料十八錢

本書は我國の重要産業に就て古來發達の過程を明かにし内地及新領土に於ける新業伸展の現勢を詳述し最新の材料に基きて記述平易懇切を極め誠に時局に適する良書たるを確信す。

【書叢傳史年少・版出館同大】

宮崎 久松著	▼少年古事記物語(三版)	金壹圓八拾錢
大久保 龍著	▼少年源賴光と四天王 <small>(大江山 鬼退治)</small> (好評)	金貳圓五拾錢
守屋 貫秀著	▼少年九郎判官義經上卷(三版)	金貳圓五拾錢
守屋 貫秀著	▼少年九郎判官義經下卷(再版)	正價金貳圓
守屋 貫秀著	▼少年曾我物語(四版)	金壹圓八拾錢
守屋 貫秀著	▼少年源氏三代北條九代記(好評)	正價金貳圓
松本 浩記者	▼少年木下藤吉郎(新刊)	正價金貳圓
松本 浩記者	▼少年豐臣太閤(新刊)	正價金貳圓
宮崎 久松著	▼少年切支丹と天草の亂(新刊)	正價金貳圓
奈良島知堂著	▼少年加藤清正(三版)	正價金貳圓
奈良島知堂著	▼少年井伊大老附櫻田門事變(新刊)	正價金貳圓
奈良島知堂著	▼少年忠臣藏(三版)	正價金貳圓
松本 浩記者	▼少年吉田松陰傳(三版)	正價金貳圓

東京市神田區西小川町二ノ三 大同館書店 振替貯金口座東京八七貳番

小學校に是非一本を備ふ可き良書

▲教授用と檢定受験用とを兼備せる隨一の國史參考書▼
 國學院大學 師文學士 岡部精一氏 高橋與惣氏共著

五十版 文部省檢定 大日本歴史 試験問題對照

●菊判クローズ製最上美本 紙數九百五拾頁 全壹冊 金七圓五拾錢 郵稅卅六錢

本書は各種學校の國史科教授の參考に供し兼て各種の受験準備に資せんが爲めに編纂せるものにして教授參考に供する方法としては現行文部省の中等學校及小學校の教授細目を基礎とし之れを適宜配合して編纂を分ち國史の本幹を形成せる事實を精細に通説し又古今史學家の發表せし新説の確健なるものは努めて之れを採録せり。試験準備に資する方法としては第一回より第廿六回に至る文檢試験問題を發題者の要求を推究探尋して一々精密に解釋し盡く各章末に添附せり。加ふるに編者多年の経験と研究とを以て些の遺漏なきを期したれば諸學校に取りては簡便適宜あらゆる重要史實を網羅して餘蘊なき最も完備せる國史參考書たるべく檢定受験者殊に小學校教員諸氏に取りては教授用と受験準備用とを兼備せる新學隨一の羅針盤たるべし。

發行所 東京市神田區西小川町二ノ三 大同館書店 振替貯金口座東京八七貳番

((録目書圖行發館同大))

◇小林 博氏新著◇

詳説日本歴史 上巻

詳説日本歴史 下巻

(菊判最上製美本全貳冊 正價金六圓八拾錢 送料各上下各冊九百頁 各冊) 國史研究の最上書として既に新界の稱譽著き本書は今や上下巻を完成して鶴首されつゝある江湖の期待に具はらんとす國史界の一大センセーションは本書の懇切な解説と史蹟の湧溢とより始まり著者新史論の相切りに至らんとす未だに起るべき文檢受驗と教授参考と國史研究を閉かざすは未だ本書の如く痒き手に届けるものありなり

◇小林 博氏新著◇

詳説東洋歴史 上巻

詳説東洋歴史 下巻

(菊判最上製美本全貳冊 正價各四圓五拾錢 送料各上下各冊五百餘頁) 本書は東洋の太古より最近に至るまでの史實を上下二

卷九編五十章に分ちて詳述せるものである故に東洋史研究者の文檢受驗者にとりては最新最詳の必讀書であり中等学校の教職者にとりては教授上の一大勞省の便利である。本書は又高等学校の學生にとりても絶好の参考書である。

◇小林 博氏新著◇

文檢用 西洋通史 上巻

文檢用 西洋通史 下巻

(菊判最上製美本 下巻金四圓八拾錢 送料各紙數五百餘頁) 本書は文部省教授細目に準據し現行はれ居る中等教科書を盡く參照し其の項目の敷衍につとめ且つ説話筆記の取扱ひにも苦心し選擇配列に頗る意を用ひ表解圖點を施し極めて多き参考史料を載せ其の興味を以て讀者の倦怠を防ぎたり故に本書は項目體にして見易く時問を省き脚裡に千萬の史實を牢記せしむるは信じて疑はず西洋史參考書としては類書中の白眉なり

◇國史研究會編纂◇

足利十五代史

(菊判最上製美本正價金參圓五拾錢 送料大錢) 東京朝日新聞評：足利時代は概して亂世とは云ふ餘

((録目書圖行發館同大))

日本文化に至大の關係ありて種々の方面に大に研究を要すべきに云ふても保らざる今日まで比較的一番顧みられなかつたと云ふてよき本書はつて遺憾なく重要な點は見逃さず記載して居り一寸「國史眼」といふ風に出來て居る

◇井原 儀氏新著◇

徳川時代通史

(菊判最上製美本 正價金七圓五拾錢 送料各全壹冊壹千三百頁) 大阪朝日新聞批評：本書は尙然たる壹千數百頁の大編纂物なるが其の内容は頗るよく充實せり但し普通の意味に於て歴史書と云はんよりは寧ろ辭典と稱すべきしものにして徳川三百年間における事柄は一切之を網羅して餘蘊なく其末を一目の下に瞭然たるしむべきに於ては世間恐らく本書の右に出づるものなく各學校の教職者及新聞記者を初め何人にも座右に缺く可からざる重要な書である

◇春藤與市郎氏著◇

古今世界大海戰史

古今世界大陸戰史

(四六判最上製美本正價金參圓貳拾錢 送料大錢) 戦争！古來國家の興廢に民族の消長に之れ程大なる關

係を有し影響を及ぼした事變はない。國民が血涙を絞リ義人が胸を斷つ、げに戦争ほと眞剣な事變は少い。本書は曾つて世界史上に演ぜられた重要な戰數十を遇びその由つて來る所その戦況その勝敗の決する所をもの影を詳述して以て戦争の方面より歴史を考察したものである

◇三村信男氏新著◇

世界地理の史的考察

(菊判最上製美本 正價金四圓八拾錢 送料各全壹冊六百餘頁) 世界諸國は如何にして建設されたか其の建設に際して國民は如何なる辛酸を嘗めて居るか等は改造された世界の如何なる経路を辿りつてあるか等は世界の現狀各地理の國勢を知るべき第一要件である而して世界の現狀各地理の國勢を知るべき第一要件である而して世界の現狀各世界の國勢を知るべき第一要件である而して世界の現狀各米各國の開かれたる地理の事情は勿論最近の歐

◇稻毛詛風氏新著◇

歐洲文化の印象と批判

(四六判最上製美本 正價金參圓八拾錢 送料各全壹冊七百餘頁) 本書は著者が三年に亘る歐洲留學の一收穫である歐洲紀行としての本書存在の理由は創造期にある獨逸を中核とする現歐洲文化一斑特に哲學・宗教・道德・藝術・教育・政治・經濟及人情風俗等の叙述批判に即して日本文

(大 同 館 行 發 圖 書 目 録)

化の改造に資する點とに存する。尙詳細な歐洲紀行の
獨逸に興味を懐く江湖の一讀を待つ所以である。
◇山名正太郎氏新著◇

政談演説の仕方と聴き方

袖珍上製美本 正價金壹圓五拾錢 (送料十二錢)
全壹冊二百餘頁
讀者新開批評：本書は決して「際物」でなく眞面目な
研究であり演説の指導書であり指南書である即ち如
何に巧に演説すべきかを詳説したものであつて彌次
封し方から演説の運び方まで徹底的に入り細を穿ち懇切
極めたる車窓などホケツトに忍ばせ附録の政治年
表に眼を通り期せずして日本政治史の現代篇がまさ
と記憶に蘇り期せずして演説の資料を豊富にして呉れ
るであらう。

◇本間久雄著◇

現代の思潮及文學

四六判最上製美本 正價金貳圓 (送料各十八錢)
全壹冊四百餘頁
吾々の生活をよりよくしより豊富にするには如何にす
べきか生活よりいふ實生活的要求を根柢として多思
慮な混純として歸するところなき近代並に現代の思
潮及文學中から最も重要なところを代並に現代の思
を檢校し解説し批評し講述したのが本書である。而
著者は飽くまでも生活の要望者にはもより文章とを以
して充分興味ある暗示と啓蒙を與へるであらう。

(大 同 館 行 發 圖 書 目 録)

に之を批判したものである。その鋭い忌憚なき著者一
流の筆鋒は老教育學者の眼を醒し青年教育家をして立
たしむるに十分であらう。是非御精讀を希ふ。
◇檢定同志會編纂◇

高等教員國語科研究の手引

四六判最上製美本 正價金壹圓八拾錢 (送料十二錢)
全壹冊四百頁
高等教員檢定試験の制度は全國幾萬の學徒に絶大の刺
激を與へた今や男女を問はず青壯を論せず苟も將來
す有らんとするの徒にして起つて此制度を活用せむと
志する事は無きに到つた然るにこれか良指針は一冊も
現はれないので本會で先づ國語科を選び發行す。内容
は試験概論・研究範圍・参考書・研究方法・答案研究・實
際受驗記・擬答第一回よりの問題集等何れも貴重な
志望者は勿論未だ學窓にある俊才にも一本を奨める。

◇宇野文學博士序文 笠松彬雄著◇

唐詩選詳解

四六判最上製美本 正價金貳圓八拾錢 (送料金十八錢)
全壹冊五百餘頁
如何なる初學者も本書を一度繰りかへ不知不識の中に此
の難解の書を釋然として氷解し得る。叙述は頗る平易
に然も趣味津津たる様に解釋を施したのが本書の特色
である。文檢に志す者は勿論一般文學愛好者の必讀す
べき良書としてすむ。

◇原田 實氏新著◇

新教育サンダアスン

四六判最上製美本 正價金壹圓八拾錢 (送料金十八錢)
全壹冊四百頁
現代の世界的第一線に立つ大文豪であり大文明批評家
であるウエルス氏が如何に情熱的に理解し讚賞し紹介し
てゐるかを見よ。新しき教育を語る者は斷じて此書を
見落とすことは出来ぬ。

◇大關増次郎氏新著◇

教育學概論

菊判最上製美本 正價金參圓五拾錢 (送料金十八錢)
全壹冊五百頁
本書は著者多年の教育的體驗に基づき穩健中正なる見
解を述べたものである。高等程度の學生師範學校専攻
科生に對する絶好の教科書たると同時にまた文檢受驗
者並に一般教育者諸氏にとつて必讀の要書たるを疑
はない。教育學研究者必讀の書としてすむ。

◇渡部政盛氏新著◇

現代日本教育學說と其批判

菊判最上製美本 正價金參圓八拾錢 (送料金十八錢)
紙數五百餘頁
本書は現代日本の教育學者の教育學說を紹介し徹底的

◇吉波彦作氏新著◇

古文眞寶(後集)詳解

四六判最上製美本 正價金三圓八拾錢 (送料金十八錢)
全壹冊五百餘頁
本書は古來四書五經に相尋いで愛讀せられた漢文の寶
典であつて古文の精粹眞實である内容は著者が多年の
研鑽の蘊蓄を傾倒して訓讀語釋通解をし批評を加へた
るもの文檢指定必讀書受驗者は是非必用の書である。
◇岡田 稔氏新著◇

◇岡田 稔氏新著◇

白文調點小學新釋

菊判最上製美本 正價金貳圓參拾錢 (送料金十八錢)
全壹冊三百頁
荷も漢文を學ぼうとするものにとつて缺くべからざる
本書は文檢受驗者高等學校入學受驗者の必讀のもの
ある内容は通古來の諸註を參照し嚴正妥當な批判力
の下に詳密な語釋と明快な通釋を施し且つ白文と調點
文とを對照比較して白文讀破の實力を養成する便宜を
計る獨智者をして一點の疑義をも残さぬ良書である
◇霜島勇氣男氏新著◇

◇霜島勇氣男氏新著◇

高等漢文漢語詳解

四六判最上製美本 正價金參圓 (送料金十八錢)
全壹冊五百餘頁
文檢第一回よりの漢文問題を四書を初め十三種の指定

(大 同 館 行 發 圖 書 目 録)

化の改造に資する點とに存する。尙詳細な歐洲紀行の
記事と渡歐者心得とは渡歐者の好参考と信ず歐洲殊に
獨逸に興味を懐く江湖の一讀を待つ所以である。

◇山名正太郎氏新著◇

政談演説の仕方と聴き方

(袖珍上製美本 全壹册二百餘頁 正價金壹圓五拾錢 送料各
全壹册二百餘頁 正價金壹圓五拾錢 送料各
研究新開批評：本書は決して「際物」でなく眞面目な
何に巧みから演説の指導書であり指南書である即ち如
封し方から演説の運びかき方を詳説したものであつて
極めに通して車窓などホケツトに忍ばせ附録の政治年
表に眼を通り期せずして演説の資料を豊富にして呉れ
るであらう。

◇本間久雄著◇

現代の思潮及文學

(四六判最上製美本 全壹册四百餘頁 正價金貳圓 送料各
吾々の生活をよりよくしより豊かにするには如何にす
べきか生活よりよくしより豊かにするには如何にす
様な混雑として歸するところなき近代並に現代の思
潮及文學中から最も重要なものを精選して現代の思
考を檢校し解説し批評し講述したる問題である。而も
著者は飽くまでも生活の要望者には本文章とを以て
にして充分興味ある暗示と啓蒙を與へるであらう。

(大 同 館 行 發 圖 書 目 録)

に之を批判したものである。その鋭い忌憚なき著者一
流の筆鋒は老教育學者の眼を醒し青年教育者をして立
たしむるに十分であらう。是非御精讀を希ふ。

◇檢定同志會編纂◇

高等教員國語科研究の手引

(四六判最上製美本 全壹册四百頁 正價金壹圓八拾錢 送料
高等教員檢定試験の制度は全國幾萬の學徒に絶大の刺
激を與へた今や男女を問はず若壯を論せずも將來爲
す有らんとするの徒にして起つて此制度を活用せむと
志される事は無きに到つた然るにこれか良指針は一冊も
現はれないので本會で先づ國語科を選び發行す。内容
は試験概論・研究範圍・参考書・研究方法・答案研究・實
際受驗記・擬答第一回より問題集まで何れも貴重な
志望者は勿論未だ學窓にある俊才にも一本を奨める。

◇宇野文學博士序文 笠松彬雄著◇

唐詩選詳解

(四六判最上製美本 全壹册五百餘頁 正價金貳圓八拾錢 送料各
如何なる初學者も本書を一度繰れば不知不識の中に此
の難解の書を釋然として氷解し得る。叙述は頗る平易
に然も趣味津津たる様に解釋を施したのが本書の特色
である。文檢に志す者は勿論一般文學愛好者の必讀す
べき良書としてすむ。

◇原田 實氏新著◇

新教育サンダース

(四六判最上製美本 全壹册四百頁 正價金壹圓八拾錢 送料各
現代の世界的第一線に立つ大文豪であり大文明批評家
であるウエルス氏が如何に情熱的な新教育の大先驅者
サンダースを見よ。新しき教育を語る者は斷じて此書を
見落とすことは出来ぬ。

◇大關増次郎氏新著◇

教育學概論

(菊判最上製美本 全壹册五百頁 正價金參圓五拾錢 送料各
本書は著者多年の教育的體驗に基づき健康中正なる見
解を述べたものである。高等程度に學生師範學校専攻
科生に對する絶好の教科書たると同時にまた文檢受驗
者並に一般教育者諸氏にとつて必讀の要書たるを疑
はない。教育學研究者必讀の書としてすむ。

◇渡部政盛氏新著◇

現代日本教育學說と其批判

(菊判最上製美本 全壹册五百餘頁 正價金參圓八拾錢 送料各
本書は現代日本の教育學者の教育學說を紹介し徹底的

◇吉波彦作氏新著◇

古文眞寶(後集)詳解

(四六判最上製美本 全壹册五百餘頁 正價金三圓八拾錢 送料各
本書は古來四書五經に相尋いで愛讀せられた漢文の寶
典であつて古文の精粹眞寶である内容は著者が多年の
研鑽の蘊蓄を傾倒して訓讀語釋通解をし批評を加へた
もの。漢文研究者に近來の良書としてすむ。

◇岡田 稔氏新著◇

白文點點小學新釋

(菊判最上製美本 全壹册三百頁 正價金貳圓參拾錢 送料各
荷も漢文を學ぼうとするものにとつて缺くべからざる
本書は文檢受驗者高等學校入學受驗者の必讀のもの
ある内容は通古來の諸註を參照し嚴正妥當な批判力
の下に詳密な語釋と明快な通釋を施し且つ白文と訓點
文とを對照比較して白文讀破の實力を養成する便宜を
計る獨習者をして一點の疑義をも残さぬ良書である

◇霜島勇氣男氏新著◇

高等漢文漢語詳解

(四六判最上製美本 全壹册五百餘頁 正價金參圓 送料各
文檢第一回よりの漢文問題を四書を初め十三種の指定

((大館發行圖書目錄))

書に分ち詳解し附録として漢語句を詳解し索引を以て應用せしめ辭典ともなるべき有益なる良書である白文の練習も出来るし文壇受驗者にとつては必讀書である

参考増鏡新釋

〔菊判最上製美本 紙數六百餘頁〕 正價金四圓五拾錢 送料金十八錢

本書の特色は本文檢定の正確と語義解釋の精細と現代語譯の巧妙と評論の明快適切である他の追隨を許さざる良書懇切丁寧を極めた詳釋書文壇受驗者の絶好の参考書として好適なり

参考大鏡新釋

〔菊判最上製美本 紙數五百餘頁〕 正價金參圓八拾錢 送料金十八錢

大鏡の詳解書も數多いが本文と語釋と通解との三つを兼ねて行き届いた組織に成るものは無い本書はその從來の缺點を補ふと同時に年表原圖を添へて説明に餘蘊なきを期したものである文壇受驗者國文研究者の絶好の参考書である

参考徒然草新釋

〔菊判最上製 紙數四百頁〕 正價金參圓五拾錢 送料金十八錢

小松 尚氏新著

文學博士 吉野義則監修・奧里將建著

最新國文學史辭典

〔菊判最上製美本 全壹册五百頁〕 正價金參圓五拾錢 送料金十八錢

〔大阪毎日新聞批評〕作者の傳記製作の事情その他文學史と密接な交渉を有する諸事項に關する考査を五十音順に網羅排列して國文學史の完全を期したものである國文學の評論史傳に興味を持つ人々の座右の寶典である附録として歌人國學者俳人儒者等の系譜及詳細な國文學史年表を附せる書である

文學博士 吉澤義則・奧里將建著

唯萬葉長歌全集

〔菊判最上製美本 全壹册五百餘頁〕 正價金參圓八拾錢 送料金十八錢

長歌の全部を口譯し古來の凡ゆる異訓異説を列挙する等頭註に詳細を盡したのが本書である反歌の口譯があり短歌名作選をも附録とし更に作者別索引をも附けてあるから一般の人士には劃期的な手引であり殊に長歌のみが出版される文壇の受驗者には絶好の答案式捷徑準備書である

兒玉尊臣氏著

譯和歌の作法

〔四六判最上製美本 正價金貳圓 送料金二錢〕

兼好法師の隨筆である本書は原作者の識見と世態に對する諷刺が篇中に内動して脈絡自ら貫通せるものがあする著者は親が詳解に當りて荷も原意に背戻せぬやうの釋も殊に親切丁寧を極め從來此種の書に免れ難きやう富な書である文壇受驗者の好指針たる良書である

龍澤良芳氏新著

龍澤良芳氏新著

〔菊判最上製美本 全壹册八百餘頁〕 正價金六圓八拾錢 送料金十八錢

本書は文壇受驗者國文研究者の入門手引書として出來たものである内容は何人にも分り易からしむる様に努め即ち桐壺より須磨明石までを各帖毎に小節に分ちその梗概を添へたる等更に通解を施し尙五拾四帖全部の檢受驗者の源氏入門に無二の手引草である

石川 誠氏新著

源氏宇治十帖新釋

〔菊判最上製美本 全壹册四百頁〕 正價金參圓五拾錢 送料金十八錢

王朝時代の物語で最も現代人の共鳴を得るものは靈肉闘争の哀史源氏物語に過ぐるものはあるまい。就中宇治十帖は近代的な點に於て最も感興を惹くべき部分である文壇受驗者には眞に唯一の参考書である其他國文研究者にすゝむ

吉村重徳氏註釋

義太夫作淨瑠璃註釋

〔四六判最上製美本 全壹册三百頁〕 正價金貳圓 送料金十八錢

假名手本忠臣藏

〔四六判最上製美本 全壹册二百頁〕 正價金五圓八拾錢 送料金廿七錢

菅原傳授手習鑑

近松時代淨瑠璃集成

〔四六判最上製美本 全壹册壹千二百頁〕 正價金五圓八拾錢 送料金廿七錢

((録目書圖行發館同大))

◇文學博士 宇野哲人氏新著◇

支那哲學史講話

(菊判最上製美本 全壹冊五百餘頁 正價金參圓貳拾錢 送十八錢)

本書は上古より清末に至る迄の支那思想の概要を極めて平易に簡明に敘述して最もよく要領を盡くせるものなり特に清朝に於ける學術思想の變遷が如何に暗々裡に革命を惹起するに至りしか支那の新人の思想は如何なる傾向を帯びるか著者の最も留意せる所にして從來世に行はれたる支那哲學史の缺陷は本書に依て補足せられて亦遺憾なし。本書は又附録として一々原文を掲げて直ちに堂奥を窺ふの便に供し亦著者の議論の根據あるを知らしむ。要するに初學者にも専門家にも座右に缺くべからざる絶好の名著なり。

◇文學博士 紀平正美氏新著◇

自我論

(四六判最上製美本 全壹冊五百餘頁 正價金貳圓參拾錢 送十八錢)

本書自我論一編は全く自分の觀念論の上に立脚して組織したるものである従て缺點も多からうと思ふが同時に又自分のものであるとの自信をも有つて居るのである

る前編「自我の分析」に於ては出來得る限りの分析を試みた後編人格の價值に於ては人格の意義と價值とを論理的に定めんと企てた。

◇文學博士 紀平正美氏新著◇

改訂人格の力

(四六判最上製美本 全壹冊三百頁 正價金壹圓八拾錢 送十二錢)

本書は先に一度出版せられしものを「自我論」の出來たと同時に讀者の要求により著者が全部新しく改訂して發表せられしものである「自我論」を讀まれし人も又これから入つて「自我論」を讀まれる人も必ず併讀せねばならぬ重要な姉妹篇である。

◇文學士 吉村勝治氏新著◇

近世界政治外交史論

(菊判最上製美本 全壹冊四百頁 正價金參圓五拾錢 送十八錢)

(大阪朝日新聞批評) 佛蘭西革命以來最近の世界戰爭を経てロカルノ會議に至るまでの世界各國の政局と國際關係の變遷を概説した書である敘述の文章流麗にして活氣があり併も多くの事件の要點をつかんで其經過並に結果を明快に解説した近來の好著なり。

((録目書圖行發館同大))

◇山口 實氏新著◇

少年東郷平八郎

(四六判最上製美本 全壹冊五百餘頁 正價金貳圓 送十八錢)

本書は東郷元帥の幼年時代より日露の大戦の大光輝の功績を初め逸話の数々まで詳細に叙述せる書である我等の東郷元帥の傳記を詳しく知らんとする青少年を初め一般の人々に本書をすすむ。

◇奈良島知堂氏新著◇

少年乃木大将傳

(四六判最上製美本 全壹冊五百餘頁 正價金貳圓 送十八錢)

將軍と夫人の傳記及逸話の数々を詳細に説ける有益なる好讀物。今や各方面の大歓迎を受けて増版また増刷の盛況をなしつつある良書なり。

◇鷺尾知治氏新著◇

少年平家物語

(四六判最上製美本 全壹冊四百頁 正價金貳圓 送十八錢)

平家物語を青少年の趣味の讀ものたらしめんと著者が苦心になりし最も自信あるもの、敢て一讀を希ふ。

◇佐藤種治氏新著◇

參考日本歴史精説

(菊判最上製美本 全壹冊八百餘頁 正價金六圓八拾錢 送廿七錢)

本書は國史を教育する人々と國史の各種試験に應ずる研究者の參考に供せんが爲に編纂せるものである。内容は中等學校教授要目に準據して太古より現代までの史實を探究考證説明し其上諸種の史籍を參照し其缺を補ひ且つ趣味ある材料を加へ何人にも讀み易く了解し易き事を考慮して詳細に叙述せるものである殊に明治天皇大正天皇今上天皇陛下の御聖德を謹記し奉り祝祭日に於ける訓話の參考に供する等大に意を用ゐたる最新の史書である文檢受験者高等專門學校入學受験の準備として必讀のものである。

◇西臺來太郎氏新著◇

中等東洋史詳解

(四六判最上製美本 全壹冊四百頁 正價金貳圓 送十八錢)

東洋史研究用の參考書として暗記に便する事で本書に越えたるものは未だ見ない。史實も内容も豊富で文檢試験の問題も織込んであり受験研究者が教科書代りの研究の底本として最良の書である。

((録目書圖行發館同大))

◇新屋敷幸繁氏新著◇

現代文學の鑑賞

(四六判最上製美本 全壹册四百餘頁 正價金壹圓八拾錢 送料十二錢)

本書は著者獨特の論と實際と詩人的熱とをもつて現代文學鑑賞の態度方法を描き出した生きたる鑑賞讀本である文學志望者文學研究者及文檢受驗者國語科教授者等にはこの方面唯一の参考書也。

◇新屋敷幸繁氏新著◇

詩の現代詩の理論と評釋

(四六判最上製美本 全壹册四百餘頁 正價金壹圓八拾錢 送料十二錢)

自由詩のためにすばらしい氣焔をあげた詩作研究書。前篇では日本の詩は自由詩より外に行く道がないから詩人はこれを押し進めろと云ふ旗幟を押したて、堂々現代の詩道を論じ、詩創作の機微を開明して残す所がない。後篇では大正詩人五十家の代表作について其創作態度を解明し盡して詩解釋の新軌軸を開いてゐる詩作者は勿論、詩研究家詩教授者外現代詩を知らんとする者の先づ見なければならぬ良書である。御愛讀を希ふ。

◇森山右一氏編著◇

現代作文の模範と練習

(四六判最上製美本 全壹册四百餘頁 正價金貳圓 送料十八錢)

突如!! 慧星の如く作文界の名著現る。實に本書は第一線に立つ現代的文章の模範と作法を系統的的分類的に明示せる時代向の良書たり。「自然描寫」「動物描寫」「人物描寫」以下十三種類の文章を更に七十三の「場合」「場合」に印象分類しその一々に亘りて「作法」「文法」「練習題」を提出し頗る科學的懇切を極めたり。弘く中・女校、師範學校上級生並に作文教授者諸氏、受驗者各位よ目下混沌たる作文界に出現したるこの慧星的名著を見落さるゝこと勿れ。

((録目書圖行發館同大))

◇春藤與市郎氏新著◇

國史 吉野朝時代記

(四六判最上製美本 全壹册六百五十頁 正價金貳圓八拾錢 送料十八錢)

正義介れて暴力勝つか!! 血涙滴る吉野朝が哀史!! 古今の大忠臣や國家の大功臣を祠られる別格官幣社現今二十五社の中その半ばに近い十社までが實に吉野朝時代の忠臣である。依て知る國史上この時代は眞に勤王の精神が炎々と燃え國體觀念が大に發揮された時であること。則ち國民に最も健實なる思想を養成するの急務なる今日先づ吉野朝の歴史を學ぶことが何よりも必要であると考へる。著者は茲に見る所あり正確に詳細且つ平易に吉野朝の由來より終末まで及千古大忠臣の各事蹟を記して第二の國民たるべき青少年を初め一般の人士に捧げ以て國家に奉ずるの一端を盡くさんことを希ふ次第である。

◇大久保 龍氏新著◇

少年八幡太郎義家

◇宮崎久松氏新著◇

少年保元平治合戦記

(四六判最上製美本 全壹册五百餘頁 正價金貳圓 送料十八錢)

本書は鎮西八郎爲朝や源義朝や平清盛、悪源太義平等源平の勇士達が目覺しい活躍は讀者に血湧き肉躍る快感を與へずにはおかない、而も其面白さの中に吾々は日本魂の精華をなす武士道をまざまざと見せられる。斯くして本書は讀者に息もつかせぬ興味と無限の教訓を與へるであらう。

((録目書圖行發館同大))

◇濱田壽郎氏新著◇

少年楠木正成の精忠

(四六判最上製美本 全壹册五百餘頁 正價金貳圓 送十八錢料)

「七度生れて君が代を護りませう」と叫んで湊川の露と消えた楠木正成公の精神こそは昭和の青少年諸君が昭和の大帝のために捧げ奉るべき唯一の道であると信じます。公が一度笠置の行宮に大命を拜して以来赤阪の春に千早の秋に幾多の奇計を以て賊を惱まし遂に湊川に討死した勇ましくも涙ぐましく至誠純忠の物語に著者の心血を凝らした此一篇の中に最も正しく最も詳に収められてあります。

◇大野武男氏新著◇

少年塙保己一傳

(四六判最上製美本 全壹册三百頁 正價金壹圓六拾錢 送十二錢料)

世界的盲人學者塙保己一の涙の生涯を著者獨特の筆によつて染めなしたものは、新日本を背負て立つべき現代の青少年たるものは本書を一讀して更に大きな飛躍をなすべきである。

◇松本浩記氏新著◇

少年木下藤吉郎

(四六判最上製美本 全一册五百頁 正價金貳圓 送十八錢料)

少年豊臣太閤

(四六判最上製美本 全一册五百頁 正價金貳圓 送十八錢料)

太閤秀吉は我が戦國時代に生をうけた世界的大英雄でしかも過去の日本には珍らしい大きな理想と抱負の所有者なのであります。そして最も彼の生涯は實に花々しい奮闘の連続であり勇敢なる戦争の歴史であります。大望に燃ゆる日本青少年は太閤と共に語り太閤と共に生きねばなりません。本書は其爲の何よりも善き諸君の友であります。太閤の少年時代日吉丸の幼年の時から信長に仕へて出世し山崎の合戦より天下一統して其から最期までの傳記は茲に著者によりて正しく完成せられ模範的の良書として世に公にせられたのであります。

◇笠松彬雄氏新著◇

唐宋八家文詳解

(菊判最上製美本 全壹册六百餘頁 正價金四圓八拾錢 送廿七錢料)

文檢漢文科の指定参考書で必讀書中の必讀書たるもの從來試験に一番多く出題される本書は今や著書の手に依つて詳解せられた。これまで八家文研究に多大の不便を感じて居られた人々にも本書の出現に依つて容易に徹底的に研究を進めることが出来るであらう敢へて本書を責任を持つてお勧めする次第である。

◇目 黒 禱 一 著◇

最新東洋歴史辭典

(菊判最上製美本 全壹册四百餘頁 正價金參圓拾錢 送十八錢料)

本書は中等教科書同参考書一般東洋史参考書の主なる名辭につき簡明に解説したものである。現今東洋歴史を研究する時辭典の必讀を痛感せらるゝ人士の多きを思ひ著者が數年の歳月に全身の力を投じて完成したものが本書である。

◇佐藤種治氏新著◇

西洋歴史精説

(菊判最上製美本 全壹册五百餘頁 正價金參圓八拾錢 送十八錢料)

本書は文部省教授要目に準據して各項目の内容敷衍に努力し記述は理解し易く趣味ある方法をとリ従前の試験問題は漏らさず悉く織込み各章の末に概括を丁寧に表示解の説明法にて記したる等深究理解し易く工夫し内容に於ても從來の史に比較して四大特色を有する等理想的の良書である。

◇橋本賢康氏新著◇

國民地理通論

(四六判最上製美本 全壹册五百餘頁 正價金貳圓五拾錢 送十八錢料)

本書は著者が多年の地理學研究の知識を基礎とし最新の學說によりて難解の地理學通論を通俗化したものであるから讀んで趣味の湧くうちに地理學の知識を會得せしむることに最も力を注いだ科學的常識といふ事が出来る。大方の諸賢之を利用して新知識を得られ又新日本の建設に資せられんことを望むものである。

《大 同 館 發 行 圖 書 目 録》

◆奈良島知堂氏新著◆
 今それ等に関する消息を知りたがつてゐる。勿論數千頁の支那史は絶し余りに無味であらう。然しこの二冊は打つて空のみに満たされてゐる。此の二冊は天草の技に出づ可くして讀物は未だ世に現はれてゐない。其の文には悉く血が通つてゐる。

少年加藤清正

(四六判最上製美本 全壹册五百餘頁) 正價金貳圓 送料十八錢
 清正は單に時代から棄られるやうな武邊一通の人物ではない。圓満な勝れた人格の持ち主である。本書は清正の將軍としての崇高な面目を豊富に描く。少年諸君は必ずや本書に多くの興味と満足を感じることと信じてゐる。少年に好適の讀物である。

栗原寅治郎氏新著◆

◆解り易き 最近世界の大事勢◆
 (四六判最上製美本 全壹册四百頁) 正價金貳圓 送料十八錢
 最近の國際關係の著しい接近と國民活動の舞臺の大いなる擴張とは自ら民衆をして此の國際的識見の涵養を痛感せしむるに至つた。本書は此の國際的識見の涵養を痛感せしむるために豊富に得べし。取て全國民の一時に紛糾をせしむる國際問題を明かにし得べし。

◆小林 博氏著◆
 文檢歴史科受験法と問題

(菊判最上製美本 全壹册四百頁) 正價金參圓五拾錢 送料金十八錢
 本書の内容は勉強の方法參考書の選擇出題の傾向變遷解答の口述等に虎の巻を述べ、又幾多の出題統計を作り歸納的に之を説明し更に過去の出題を粗上に批評す。本書なして歴史科を受験するは超時日超經濟を拵き或は徒らに掛によつて魚を求むるの嘆を繰返すことあらんか切に一本をすむ。

世界性業婦制度史

◆瀧本二郎氏新著◆
 (四六判最上製美本 全壹册五百餘頁) 正價金貳圓八拾錢 送料金十八錢
 性業と現代宗教は相容ないが往時は賣淫を宗教儀式上必要な行爲として強制した。道徳は性業を惡弊と難するが一度は果すべき人類の義務だと教た時代もある。又遊廓を官營とし性業を獨占した國もある。然し思想の進化道徳の純化は公娼不認可主義に移た。本書は世界各國の道徳宗教社會思想の變遷か性業を通じて美術文藝に表現した陰影や其時代の制度文化に及した影響を述べ又性業法規施行迄の経緯を説たから社會問題思想問題婦人問題研究者には必讀の要あり。

253
436

